

EYES

復刊第53号

グランプリファイナル

特集号

発行者

半田高校新聞室

愛知名古屋に集う氷上の華

フィギュアスケートグランプリファイナル、愛知・名古屋で初開催

日本人選手、大健闘！

宇野二位、須本三位

昨年の十二月七日から四日間にわたり愛知県名古屋市の日本ガイシホールで、ISUグランプリファイナル国際フィギュアスケート競技大会愛知・名古屋2017(以下、GPファイナル)が開催された。六大会あるグランプリシリーズの成績によって選ばれた世界のトップスケーター達による今大会、多くの人の注目が集まる中、選手たちは、みな死力を尽くして技を競い合った。



シニア男子シングル表彰式 左から宇野昌磨、ネーサン・チェン、ミハイル・コリアダ各選手



須本選手のフリーのジャンプ

男子シングルでは、アメリカのネーサン・チェン選手がトップ。ジャンプでミスをした宇野選手はチェン選手に僅か0.5点差で敗れ、惜しくも二位であった。女子シングルでは、初めてのシニアとしてのシーズンでGPファイナル出場を決めたロシアの15歳アリーナ・ザギトワ選手が見事優勝を果たした。宮原知子選手は5位、樋口新葉選手は6位であった。ジュニア男子シングルでは、大阪出身で高校二年生の須本光希選手が3位に入賞し、表彰台へと上った。

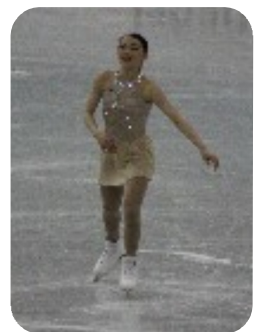
世界初3回転半+3回転

ジュニア女子シングルに出場して4位となった15歳の紀平梨花選手は、今大会で、ISU公認大会では初となる3回転アクセルから続けて3回転トウループを成功させた。フリーの演技の後、紀平選手は、記者インタビューで「今回は激戦だった。点数には悔いはあるが、連続3回転を決めることができてよかった。」と語った。

快挙 世界最高得点更新

フランスアイスダンス、ドイツペア

今大会では、アイスダンスで、フランスのガブリエラ・パパダキス/ギヨーム・シゼロン組がシヨートとフリーの合計202.16点、ペアでは、ドイツのアリョーナ・サプチェンコ/ブルーノ・マッソー組が236.68点を獲得。両組目で世界最高得点が更新され、また一つフィギュアスケートの歴史に新たな一ページが加えられた。



シヨート演技後、笑顔の紀平梨花選手



世界最高得点を更新したパパダキス/シゼロン組の演技

アイスダンス、ペアの魅力

しかしながら、これらの二種目は男女シングルと比べて、日本の知名度が低い。男女二人で取り組む競技ならではの難しさからか、日本で

もひとつの魅力

選手の個性に酔いしれる

世界一を懸けた大激闘から一夜明けたGPファイナル最終日、しびるような演技が観客を魅了した。エキシションが催された。

ここでは、各選手が観客を楽しませるために用意した、一風変わったパフォーマンスも見ることができ、真剣勝負とは一転、競技と



チョック/ベーツ組の椅子を使った演技

選手たちと共に

愛知県スケート連盟インタビュー

はあまり競技人口が多くないことが、その一因だろう。だが、アイスダンスやペアには、難しさ故の魅力が多分にある。

アイスダンス、ペアの違い

男女二人で滑るといって類似性が高いアイススケートとアイスダンス。両種目の一番大きな差異はアイスダンスでは、演技を構成する要素(エレメント)に、ジャンプ技が認められないということだ。

アイスダンス、ペアの見どころ

一方、これら二種目に共通する最も大きな魅力は、二人の糸乱れぬ連携によって繰り出される、技の数々である。ペアでは女性を男性が頭上に持ち上げながら滑るリフトや、女性のジャンプを男性が投げるように補助してより高く跳ぶスロウジャンプ。アイスダンスでは、二人の回転を揃えながら回転するシンクロナイズド・ツイストなど、さまざまなエレメントがプログラムの中に組み込まれている。ペア間のほんの僅かな連携の乱れが成否を分ける、その緊張感、技のダイナミックさは競技の魅力を一層高めている。これらの種目について知れば知るほど、その奥深さに引き込まれることだろう。

よりよく理解することができるよう。

マティソン・チョック/エバン・ベーツ組(アイスダンス)

普段日本ではスポットライトが当たりにくい種目の選手の演技も楽しめる、という点でも、エキシションは優れているといえる。

チョック/ベーツ組は、小道具のイスを使用した、表現力豊かで大人びた演技を披露。道具を使えない普段の演技では見られない動きも取り入れられ、観客を大いに魅了した。

ネーサン・チェン選手(男子シングル)

日本でも人気が高く、何度もコールされていたネーサン。次世代を担うエースかつ五輪メダル候補でもある。この日の演技でも軽々と



力強く舞うチェン選手

4回転ジャンプを跳び、軽快なステップと音楽も相まって会場を引き込んだ。このプログラムをそのまま演技で使用しても充分通用するのではないかと、とも思わせるほどに完成された演技を披露した。彼からは、今後も目をなせそうにない。



トワの衣装のザギトワ選手

アダム・リップン選手(男子シングル)

歌手顔負けのセンスと歌声で会場全体を魅了したアダム・リップン選手。普段見られない選手の素顔が見られるエキシション、それを体現したプログラムともいえる。



日本ガイシホールに響き渡るリップン選手の歌声

数多くのトップスケーターを輩出している愛知県。そんな愛知県のスケート振興のため、日夜尽力している組織がある。愛知県スケート連盟だ。その活動及びフィギュアスケートについて同連盟の副理事兼フィギュア委員長を務める久野千嘉子さんに話を伺った。

愛知県スケート連盟は年間を通して数多くの活動に取り組んでいる。主な業務は、各種大会の運営、審判や選手のサポート、スケート教室の開催を始めとする一般の方への普及活動などだ。また、毎年一月初めには、一般への普及活動と選手育成両面の役割を担う名古屋フィギュアスケートフェスティバルを実施している。

数ある活動の中でも特に力を入れているのが、選手たちの強化である。合宿などを行い、選手たちの成長を図る強化活動。愛知県では、連盟に協力してくれる人が多く、他県と比べても充実した支援

が可能なという。「コーチの方々とも良好な関係を築けており、充実した支援を可能にしている。」と久野さんは語る。

若手の育成にも力を入れている。選手が優雅なスケートイングを身につけられるよう、アイスダンスのプロ選手を招いて教室を開くなど、様々な企画を行っている。その他、選手を怪我から守るための講習会を実施したり、年々複雑化するルールについて助言をしたりと、活動内容は多岐に渡る。

愛知県は日本の中でもスケートの盛んな県である。日本スケート連盟の選定する強化選手に愛知県の選手が最も多いことから、その活発さが伺える。その理由の一つに伊藤みどり選手が存在がある。女子で世界初の三回転アクセル成功、アジア人初となる世界選手権優勝など、数々の記録を保持する伊藤みどり選手。彼女がもたらしたフィギュアスケートへの熱狂は、

その後のスケート界に大きな影響を与えた。特に彼女の出身地である愛知県では、彼女の築いた流れが今も途切れることなく続いている。「彼女の活躍なしに今の愛知のスケートはない。」そう久野さんは語った。

「選手に体の不調を相談されれば、どれだけでも対応する。相談されなければ気づけないことも多いので、すぐに相談してほしい。」そんな久野さんの言葉から、いかに選手たちを大切に思っているのかが伺えた。今日も連盟は、愛知のスケートのため邁進している。



フィギュア委員長 久野千嘉子さん 日本ガイシアリーナスケートリンクにて

座談会「スポーツの極限を語る」

取材に参加。



座談会の様子

1月、本校関係者による座談会を開催した。「記録への挑戦」「美の追求」など、さまざまな観点から、他競技のエキスパートが、フィギュアスケートの未来について多様な意見を交わした。参加者は、以下のとおり。間瀬真一先生：体操部顧問。体操の国際審判もつとめたことがある。体操界の重鎮。伊東朝樹先生：本校柔道部初の高校総体出場を果たした柔道部顧問。竹内千草先生：陸上部顧問。陸上界に精通する。武藤晴哉くん：2年生のフィギュアスケートファン。取材に参加。

「でもそうしたら限界あるよね。」武「振動を吸収するような靴が出てくればいいですけど…」竹「そもそもフィギュアの採点基準って何ですか。」武「プログラムの中で、技に入るまでの流れに、難しいターンやステップが入っているかどうか。あとは、どれだけきれいに飛べるか、着氷はきれいか、回転が足りているか、などがありませんか。」竹「衣装は採点基準なのかな？」武「衣装は演技全体の印象で採点に影響されますね。」

「そういえば、採点基準が平昌五輪後に大きく変わると聞きました。」竹「GPファイナルに行った時、審判ブースを見たよね。体操はまだノートにメモだけけど、スケートは全部パソコンで計算している。」竹「一瞬だと、回転不足とか判断できないですね。」

武「フィギュアもブレードの性能が上がってきているので…。もちろん主体の技術の向上もあるけど、体操と一緒に、装備品の影響は大きいと思います。」竹内千草先生(以下、竹)「スピードスケートだと、かかとが外れる靴がありますよね。あれで、記録が劇的に伸びたとか。フィギュアだと、固定されているよね。外れたら大変(笑)。」

間「めちゃくちゃ衝撃だよ。ガードンって着水するって。」武「回転数を上げると、体に負担が来るので、コンベーションを難しくする方がいいのかな。」

間「愛知県ってフィギュアの競技人口がとて多いよね。」武「そうですね。競技人口を増やすには、競技者の立場からだけじゃなくて、見る側の視点に立って考えることが大切だと思う。やっぱり、見ている人たちに『面白い』って感じてもらうために。柔道だって、五輪種目に残るために常にいろいろルールを改正している。あとメディアに取り上げてもらうために、メディア映えるスター選手も必要だと思います。」

武「それから、国はスポーツ事業にもっとお金を投じるべきですね。ロシアは競技人口こそ少ないですが、アスリートに対しての資金援助が古いと、跳ねないので技が出来ない、っていう一流選手もいる。高校生の試合だと十分使えるけど、でも、スケート靴はそんなに早く壊れるんだね。」

竹「用具の進歩も必要だったことだね。結局記録の向上は、用具や設備とかの進歩とイコールでもあるから。特に記録を出す競技なんかは、そういうのがいかに進歩するか、との戦いでもあるよね。陸上でもトラックに風がうまく回るように設計されていたりする。」

伊東朝樹先生(以下、伊)「水泳でも特殊な水着がありましたよね。」武「技術の進歩には、器具の技術の向上が必要だということですね。」伊「そうですね。課題は、まだまだ山積だね。あとは、競技人口を増やすっていうのも課題の1つじゃないかな。」

助が充実しています。日本でも東京五輪に向けて、ようやくその機運が高まってきた気もしますが、フィギュアスケートの魅力は、どんな点にあると思いますか。」竹「技術もすごいけど、見ていて美しいですよね。スポーツと芸術の融合というかな。」

「最後にひとことずつお願いします。」竹「極限」というテーマでしたが、人間はまだ限界には至っていないと思います。器具もそうじゃないかと思う。器具もそうじゃないか、と極限は難しい。過去の記録は簡単に越えられる。人類は永遠に記録を追い求められる。だからこそスポーツには終わりはない、と思います。」

武「技術の進歩はさておき、人間も少しずつ進化していますからね。フィギュアスケートに限らず、そういう意味で、極限というものは存在しないと思います。」伊「僕は科学技術や用具の進歩は欠かせないと思う。そうすれば今はできないことでも、できるようになるから。ただ、遺伝子ドーピングみたいな、その技術を悪用してしまうのはいけないけどね。」

「人類はどこまでも高みを目指せる。そのためには、限界への挑戦を厭うことなく、チャレンジ精神を保ち続けなければいけない、ということですね。」

「滑ること自体が楽しい」と、それぞれに語る。

「逆境」を乗り越えるために心掛けていくことは三者三様であるが、同時に多くの選手に共通点を見出すことができる。それは「日々の努力を惜しまないこと」である。トップ選手ほど基本的に忠実なのだ。しかもその努力の過程で、楽しむことも忘れてはいない。楽しむなければ向上心は保たれないし、何より継続できない。彼らは「逆境」さえも成長の一途だと、笑って乗り越えてきたのだ。そして多くの人間の鑑たりうるこの姿勢が、震えるほどの感動を生む。

開催間近の平昌五輪。熱い戦いに再び世界の注目が集まる。

「逆境」を乗り越えるために心掛けていくことは三者三様であるが、同時に多くの選手に共通点を見出すことができる。それは「日々の努力を惜しまないこと」である。トップ選手ほど基本的に忠実なのだ。しかもその努力の過程で、楽しむことも忘れてはいない。楽しむなければ向上心は保たれないし、何より継続できない。彼らは「逆境」さえも成長の一途だと、笑って乗り越えてきたのだ。そして多くの人間の鑑たりうるこの姿勢が、震えるほどの感動を生む。

至高の天才たちに学ぶ

人間には、乗り越えなければならぬ壁が幾つもある。世界を舞台に戦うトップフィギュアスケーター達は、いかにしてさまざまな「逆境」を乗り越えてきたのか。「今まで試練と想ったことはない。」愛知県出身の宇野昌磨選手は、逆境や困難にぶつかった時にどうするか、との問いにこう答えた。最初は緊張したり、高い壁だなと思ったりしても、毎日繰り返し練習することで、壁だと思ってきたものが当たり前になってくると続け、「やりたいことをずっとやってきたので、逆境というのあまり分からないです。」と、宇野野郎で締めくくった。「毎日同じことを繰り返す②それをきちんとこなす③自分の目標を立てる④それに向かって邁進する」と4か条を掲げたのは、ロシアのミハイル・コリアダ選手。「人生は様々なので、それぞれ考えていくものだと思います。」と語った。男子シングルで首位となったアメリカのネーサン・チェン選手は言う。「小さなゴールを決めながら大きなゴールに向けて進んでいきます。大きなゴールが見えれば、練習にも集中して取りかかれる。勝負の時は、これまで練習を信じて全力を尽くすだけ。」

モチベーションを維持する秘訣をジュニア・ペアの入賞者たちは、「大会でいい結果を出した時の達成感」、「一つ一つ、そのシーズンの課題」を達成していくこと、と

「逆境」を乗り越えるために心掛けていくことは三者三様であるが、同時に多くの選手に共通点を見出すことができる。それは「日々の努力を惜しまないこと」である。トップ選手ほど基本的に忠実なのだ。しかもその努力の過程で、楽しむことも忘れてはいない。楽しむなければ向上心は保たれないし、何より継続できない。彼らは「逆境」さえも成長の一途だと、笑って乗り越えてきたのだ。そして多くの人間の鑑たりうるこの姿勢が、震えるほどの感動を生む。

開催間近の平昌五輪。熱い戦いに再び世界の注目が集まる。



ジュニアペアの記者会見

「滑ること自体が楽しい」と、それぞれに語る。

「逆境」を乗り越えるために心掛けていくことは三者三様であるが、同時に多くの選手に共通点を見出すことができる。それは「日々の努力を惜しまないこと」である。トップ選手ほど基本的に忠実なのだ。しかもその努力の過程で、楽しむことも忘れてはいない。楽しむなければ向上心は保たれないし、何より継続できない。彼らは「逆境」さえも成長の一途だと、笑って乗り越えてきたのだ。そして多くの人間の鑑たりうるこの姿勢が、震えるほどの感動を生む。

開催間近の平昌五輪。熱い戦いに再び世界の注目が集まる。

取材を終えて

今回このような機会を頂いて、初めて会場へ足を運ぶ、テレビの画面越しではなく競技を見ました。公開練習を見ようという観客席に入り、まず初めに聞かされた、ゴウ、というスケート靴のブレードが氷を削る音。リンクに目をやると、丁度選手がジャンプを決めるところで、そのダイナミックな動きに思わず胸が熱くなりました。その後も縦横無尽にリンクを滑走し、思い思いの技を見せる、選手の皆さんの姿に、どれ程練習すればこんな事ができるようになるのだろうと、何度も思いました。青白く光る氷上を、音楽に合わせ、ときに優雅に、ときに激しく滑り抜ける彼らの演技は、まるで夢を見ているような非日常的な体験でした。

選手たちへのインタビューでは、演技直後の選手の表情を間近で見ることができ、彼らがいかに競技と真剣に向かい合っているのか、痛感しました。また、プロの記者の方々の仕事を間近で見られたことは、大変有意義で、今後の参考にしたいと思います。何かに真摯に取り組む姿勢について考えさせられる4日間でした。

「逆境」を乗り越えるために心掛けていくことは三者三様であるが、同時に多くの選手に共通点を見出すことができる。それは「日々の努力を惜しまないこと」である。トップ選手ほど基本的に忠実なのだ。しかもその努力の過程で、楽しむことも忘れてはいない。楽しむなければ向上心は保たれないし、何より継続できない。彼らは「逆境」さえも成長の一途だと、笑って乗り越えてきたのだ。そして多くの人間の鑑たりうるこの姿勢が、震えるほどの感動を生む。

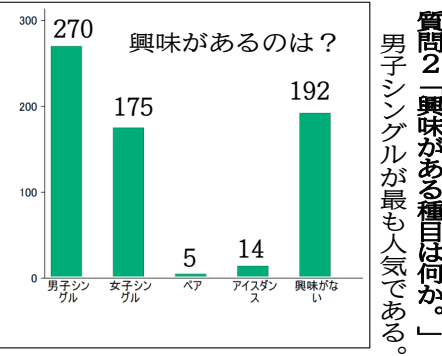
開催間近の平昌五輪。熱い戦いに再び世界の注目が集まる。

フィギュアスケートについて

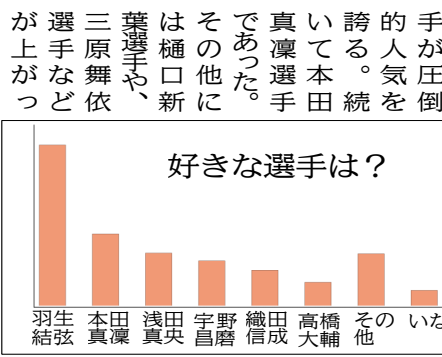
○半高生に聞く

半高生のフィギュアスケートとフィギュアスケート選手への関心について、一、二年生585名にアンケートを行った。

質問1「フィギュアスケートに興味があるか。」



質問2「興味がある種目は何か。」



質問3「好きな選手は誰か。」

次に、女子シングルの人気も高いが、ペアやアイスダンスへの関心は低かった。

「逆境」を乗り越えるために心掛けていくことは三者三様であるが、同時に多くの選手に共通点を見出すことができる。それは「日々の努力を惜しまないこと」である。トップ選手ほど基本的に忠実なのだ。しかもその努力の過程で、楽しむことも忘れてはいない。楽しむなければ向上心は保たれないし、何より継続できない。彼らは「逆境」さえも成長の一途だと、笑って乗り越えてきたのだ。そして多くの人間の鑑たりうるこの姿勢が、震えるほどの感動を生む。

「逆境」を乗り越えるために心掛けていくことは三者三様であるが、同時に多くの選手に共通点を見出すことができる。それは「日々の努力を惜しまないこと」である。トップ選手ほど基本的に忠実なのだ。しかもその努力の過程で、楽しむことも忘れてはいない。楽しむなければ向上心は保たれないし、何より継続できない。彼らは「逆境」さえも成長の一途だと、笑って乗り越えてきたのだ。そして多くの人間の鑑たりうるこの姿勢が、震えるほどの感動を生む。

「逆境」を乗り越えるために心掛けていくことは三者三様であるが、同時に多くの選手に共通点を見出すことができる。それは「日々の努力を惜しまないこと」である。トップ選手ほど基本的に忠実なのだ。しかもその努力の過程で、楽しむことも忘れてはいない。楽しむなければ向上心は保たれないし、何より継続できない。彼らは「逆境」さえも成長の一途だと、笑って乗り越えてきたのだ。そして多くの人間の鑑たりうるこの姿勢が、震えるほどの感動を生む。

「逆境」を乗り越えるために心掛けていくことは三者三様であるが、同時に多くの選手に共通点を見出すことができる。それは「日々の努力を惜しまないこと」である。トップ選手ほど基本的に忠実なのだ。しかもその努力の過程で、楽しむことも忘れてはいない。楽しむなければ向上心は保たれないし、何より継続できない。彼らは「逆境」さえも成長の一途だと、笑って乗り越えてきたのだ。そして多くの人間の鑑たりうるこの姿勢が、震えるほどの感動を生む。

「逆境」を乗り越えるために心掛けていくことは三者三様であるが、同時に多くの選手に共通点を見出すことができる。それは「日々の努力を惜しまないこと」である。トップ選手ほど基本的に忠実なのだ。しかもその努力の過程で、楽しむことも忘れてはいない。楽しむなければ向上心は保たれないし、何より継続できない。彼らは「逆境」さえも成長の一途だと、笑って乗り越えてきたのだ。そして多くの人間の鑑たりうるこの姿勢が、震えるほどの感動を生む。



お客さんの中には悠々と滑っている人が何人かいた。その中に異彩を放つ「おじさん」がいた。その「おじさん」は

「逆境」を乗り越えるために心掛けていくことは三者三様であるが、同時に多くの選手に共通点を見出すことができる。それは「日々の努力を惜しまないこと」である。トップ選手ほど基本的に忠実なのだ。しかもその努力の過程で、楽しむことも忘れてはいない。楽しむなければ向上心は保たれないし、何より継続できない。彼らは「逆境」さえも成長の一途だと、笑って乗り越えてきたのだ。そして多くの人間の鑑たりうるこの姿勢が、震えるほどの感動を生む。

貴重な機会を頂きありがとうございました(津) 人生様々、当惑の毎日であります(・ω・)(武) 川凍らしてスケートしてみたいです。(山) スケートってやば。

編集後記